

配置は「川の流れのように」寡占に進む

平成29年の二件の配置販社の吸収合併から

発行：日本置き薬協会 事務局

業界内では一目置かれる配置販社社長のT氏が配置業界の将来について「製造部門を自社内に持つF社とK社の二社しか残らないのではないか」と言われた。「それならT社、N社も加え4社になるだろう」と笑いながら話しを合わせたが、有りうる状況と内心T氏の読みに感服した。

川上側のメーカーの少数化、寡占化はこれからの傾向として、流通を担う配置販売業者の寡占化現象は現在進行中であり、地域の中堅配置販社の動向は活発になってきている。

9月に入り東北地方の有力な配置販社、広田薬品(株)が(株)富士薬品に吸収合併されるとの噂が流れ中旬に確認された。同社は岩手県盛岡市に拠点を設け、東北6県に18営業所を抱える中堅販社。富士薬品は同地域に29営業所を既に展開し、勢力に更に厚みを増した格好となる。

振り返ると、昨年9月に三洋薬品グループ(東京都豊島区)は、広田薬品配下の(株)東和薬品(東京都江戸川区)を吸収合併して業界内で話題となり、更に今年3月にモチノキ薬品(株)(大阪市西区)を吸収合併している。モチノキ薬品は、北海道、福島を除く東北5県、埼玉、長野、静岡、三重、奈良、大阪、兵庫、岡山、広島、香川、高知、福岡、長崎、鹿児島各府県に35営業所を擁する全国展開の旧常盤薬品系の大型販社。三洋薬品グループの三洋薬品(株)は、北海道東北地域に6、関東地区に6、中部東海地区に6の合計18営業所の中堅販社であり、「小」が「大」を喰う合併だが、同グループオーナー近藤氏の全国展開の熱意を叶えたものである。

全国展開する上位大規模販社は下記となる。(順不同)

(株)富士薬品* (さいたま市) (広田を除く)	299営業所 (47都道府県)
くみあい家庭薬・厚生連グループ* (山形県長井市)	38拠点 (38道県)
(株)常盤メディカルサービス* (大阪市中央区)	42営業所 (22都道府県)
三洋薬品グループ (東京都豊島区)	54営業所 (28都道府県)
布亀(株) * (兵庫県西宮市)	58営業所 (24都府県)
中京医薬品グループ (愛知県知多市)	73営業所 (20道県)
IHMグループ (東京都品川区)	58営業所 (33都道府県)
河上薬品商事グループ (岐阜県関市)	25営業所 (12県)
マエダ薬品商事(株) (神奈川県横浜市)	28営業所 (11都府県)
新日配薬品(株) (山口県下関市)	16営業所 (5県)
藪内薬品(株) (長崎県佐世保市)	18営業所 (5道県)

大規模販社間、中堅販社間、或いは大規模と中堅販社間の合併により寡占化はさらに進むであろう。

前述のT氏は、配置販社の業績縮小を補完する、新たな収益を確保出来る業務を加えなければならぬと提唱する。配置販売業は、薬機(事)法の下、「先用後利」を掲げる訪問対面の販売形態のため「完結性」、「排他的」な面があり、配置業と親和性のある業務、製品選択は難しいが、ウォーターサーバー、宅配牛乳、ネット販売事業等で成功された販社の事例がある。T氏は新たな事業、業態を模索中で、配置販社は興味深く見詰めている。

ドラッグストア各社は業態規模拡大の中で寡占化を進めたが、配置販社は縮小の途に寡占化が進行する。その対面訪問販売は、医薬品販売をコアとしながら、どのように変化して行くのだろうか。

本件に関するお問合せ先 **日本置き薬協会 事務局**

〒114-0023 東京都北区滝野川3-56-9

TEL. 080-6789-6165 FAX. 048-251-965